

第IV部門

アンケート調査に基づく健康まちづくりに関する市民意識分析

関西大学環境都市工学部 正会員 ○秋山 孝正

関西大学環境都市工学部 正会員 井ノ口弘昭

1. はじめに

健康まちづくりのプロジェクトが推進されている¹⁾。ここでは、現実の健康まちづくりプロジェクトに関する市民の健康意識を分析する。特に、市民の都市活動は、日常生活における健康の意識に基づくものである。

健康まちづくりプロジェクトは、医療・健康・福祉に関する社会システムの構成に加えて、市民の自律的な健康意識に基づく都市活動を創造が極めて重要である。このため、健康まちづくりプロジェクトに対する市民意見を把握するとともに今後の可能性に言及する。

2. 健康まちづくりに関する市民意識調査

本研究では、健康まちづくりのプロジェクトに関する市民意識を検討する。具体的には、吹田操車場跡地の健康まちづくり（北大阪健康医療都市）プロジェクトを想定する。プロジェクトの概要を図—1に示す²⁾。



図—1 北大阪健康医療都市プロジェクト

この健康まちづくりプロジェクトでは、コア街区がJR岸辺駅を中心に、国立循環器病研究センターと市立吹田市民病院の大規模医療機関が立地する。このコア街区のJR岸辺駅周辺は吹田市域であり、一方でコア街区東部にあたる都市型居住ゾーンが摂津市域に位置する。したがって、吹田市民と摂津市民それぞれの日常的健康推進が期待されるプロジェクトである。

ここでは、健康まちづくりに関する主要施設が立地する吹田市民の意識を分析する。表—1に意識調査の概要を整理する。今回の調査はWEB調査であり、吹田市民の年齢構成では若干高齢層が相対的に少ない。

表—1 アンケート調査の概要（吹田市）

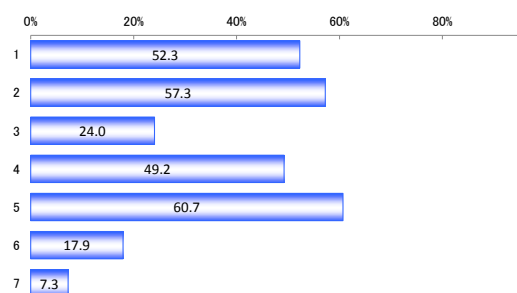
調査対象者	WEBアンケート調査モニター（吹田市在住者）
調査方法	WEB調査
主な調査項目	・個人属性（年齢・性別・居住地） ・健康意識 ・医療機関の現状認識 ・市民参加への意見 ・プロジェクト協力意識 など
調査期間	平成27年12月17日～20日
サンプル数	500名（男性：306、女性：194）

アンケート調査においては、健康まちづくりプロジェクトに関連して多面的な質問を行っている。

3. 現状市民の健康意識に関する基礎的分析

まず現状市民の日常的都市活動からみた健康意識を分析する。ここで、図—2は健康への取り組み（262名回答）に関する集計結果を示している。

1. 睡眠・休養を十分にとるように心がけている
2. 食事・栄養に気を配っている
3. 酒やたばこを控えている
4. 定期的に健康診断を受けている
5. 運動やスポーツをしている
6. 雑誌やテレビ等で健康に関する情報を収集している
7. その他

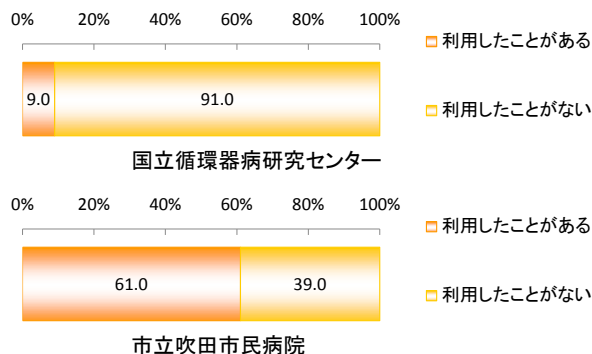


図—2 健康に対する取り組み

本図より、運動・スポーツ、食事・栄養などの項目の回答が多い。また定期的健康診断に関しても半数程度の回答がある。医療機関、運動施設、健康レストランなど健康まちづくりの基本施設と関係が観測できる。

つぎに大規模医療機関に対する市民意識を分析する。

図2は、現行の国立循環器病研究センターと市立吹田市民病院の各市民の利用経験を示している。

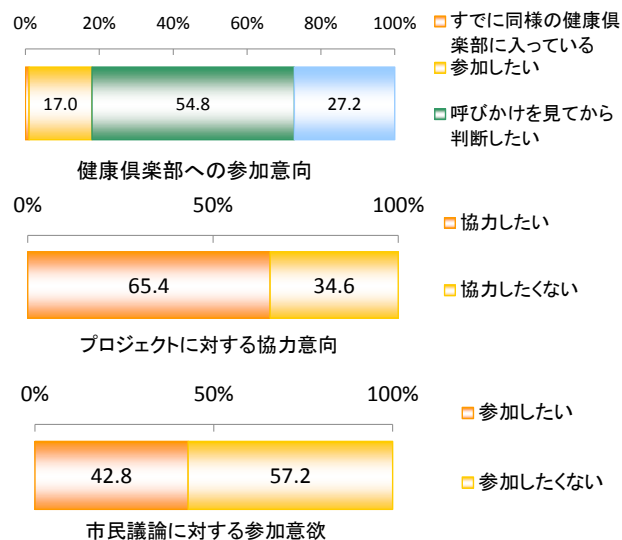


図一 大規模医療施設の利用状況

国立循環器病研究センターは、市立吹田市民病院に対して相対的に市民の利用が少なく、市民の日常的な都市活動に対する関係性が大きくないことがわかる。

4. 健康まちづくりに対する市民意見

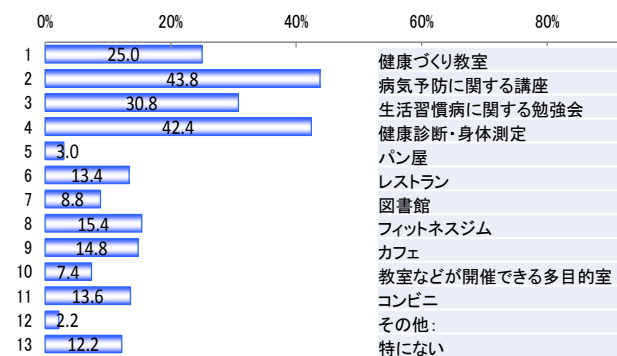
健康まちづくりの構成要素に関する市民意識を整理する（図一4）。全般的にプロジェクトへの協力意識は比較的高いが、市民参画の意識は十分とはいえない。



図一 健康まちづくりに関する市民意識

また健康倶楽部の個人的健康に関する意識は高いことに対して、コミュニティの健康づくりへの参加意識は、相対的には大きくないことがわかる。

つぎに健康まちづくり中心となる医療機関のあり方について、市民の意向を質問した。ここで、図一5に市民から期待される機能・施設の内容を整理した。



図一 将来の病院に期待する機能・施設

医療機関に対する市民意識では、医療関連項目が重要視される。すなわち、現段階では開かれた医療機関イメージは意識共有されていないようである。

5. おわりに

本研究では、現実の健康まちづくりプロジェクトの今後の課題を把握するため、関連する市民意識を分析した。本研究の主要な成果は以下のように整理できる。①現時点の市民の健康意識では、日常的な健康維持活動が重要な項目である。②高度医療機関に関する市民との関係性理解の必要性が高い。③健康まちづくりに対する協力意識は比較的高いが、市民参画に関する理解はなお必要性が高い。これらの分析結果を踏まえて、市民活動の相互関係から、現実社会インフラの構成を検討する必要がある。

なお本研究の遂行にあたり、アンケート調査作成において吹田市・吹田操車場跡地まちづくり室にご協力いただいた。また基礎集計に関しては、関西大学学生飯田真子さんにご協力をいただいた。ここに記し感謝の意を表する次第である。また本研究は、関西大学先端科学技術推進機構「健康まちづくりのためのソーシャルデザイン」研究グループの研究成果の一部である。

<参考文献>

- 1) 国土交通省 都市局：健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン（技術的助言），2014.
- 2) 関西大学：エコメディカルシティの中核となる吹田操車場跡地コア街区の果たすべき機能の検討研究報告書，2012..